

令和4年度 第1回生駒市環境審議会 会議録

- 1 開催日時 令和5年1月19日(木) 9時30分～11時30分
- 2 開催場所 生駒市コミュニティセンター 4階 402・403会議室
- 3 審議事項
 - (1)会長及び副会長の互選
 - (2)「生駒市の環境」について
 - (3)その他

4 会議出席者（以下、敬称略）

委員	水谷知生	河瀬玲奈			
	白本和久	山田耕三			
	伊藤征史郎	上武敏一	寺田信弘	西口まゆり	
	吉田慎太郎	矢田千鶴子	楠正志	当麻潔	右馬ノ靖

事務局	小林弘幸	市民部長
	川島健司	地域活力創生部次長
	黒松裕喜伸	環境保全課長
	金子雅文	SDGs推進課長
	高谷英明	環境保全課課長補佐
	木戸勇	環境保全課課長補佐兼施設係長
	木口昌幸	SDGs推進課課長補佐
	松本公一	環境保全課事業係長
	北里直之	環境保全課保全係長
	加納明	SDGs推進課主幹兼低炭素まちづくり推進係長
	綿部里菜	SDGs推進課低炭素まちづくり推進係員

5 審議内容

- (1)開会
- (2)あいさつ
- (3)審議事項（以下、発言要旨。）

事務局 会議の成立について報告。全委員14名のうち13名の出席により会議は成立。傍聴者は0名。審議事項(1)「会長及び副会長の互選について」審議を宣告。委員に意見を求める発言。

各委員 会長を水谷委員、副会長を河瀬委員とすることを決定。

＜会長席、副会長席に移動、着席。＞

事務局 就任にあたり会長から挨拶をいただきたいとの発言。

水谷会長	前回の審議会から1年以上が経過したが、この間に世間では様々なことが起きた。コロナ禍の状況で、このように様々な立場の人が一同に集まって意見を話し合う機会は貴重である。
事務局	以降の議事進行を会長に依頼。
水谷会長	審議事項(2)「生駒市の環境」について審議を宣告。事務局に説明を求める発言。
事務局	事前に配布した資料 1「生駒市の環境(令和4年度版)」の全体構成、新しい取組や主だった項目を中心に説明。
水谷会長	委員からの質問や意見を求める発言。
矢田委員	8ページのゼロカーボンシティ宣言について、奈良県としてもゼロカーボンシティ宣言を行ったことを記載してはどうか。ゼロカーボンシティ宣言を行ったことにとどまらず、今後も継続して取組を続けていただきたい。ごみの量は、大型商業施設の縮小や拡大にともなって変動する。生駒市内の売場面積あたりの排出量を把握し、毎年更新する必要はないが環境白書にも適宜反映させるようなことは検討しているか。
事務局	ゼロカーボンシティ宣言の記載については、意見を反映させたい。ごみの量については、大型商業施設の現状を把握し、計画や目標値に反映させることを検討する。
楠委員	13ページの市民エネルギー生駒の記載について、文章を一部削除して修正いただきたい。市民出資により市民エネルギー生駒が設置したのは、21施設のうち5か所である。この記載だと21施設すべて市民エネルギー生駒が設置したように読み取れてしまう。せっかくの機会なので市民エネルギー生駒について補足すると、共同発電所の設置にあたって、市民の方々から多大な出資をいただき運営している。収益は小学校に寄附したり、子どもたちが楽しめるようにソーラーカー工作教室の開催に使ったりうまく地域に還元させている。市民エネルギー生駒は、今年度環境省グッドライフアワードにて環境大臣賞を受賞した。2016年度に続き2回目の受賞であり、2度の受賞は初の快挙であり、環境省から生駒市の地産地消モデルは大きく評価いただいている。国が脱炭素先行地域選定の募集を行っており、生駒市も是非選定されてほしい。
事務局	13ページの指摘事項については修正する。環境省のグッドライフアワードについて、市民エネルギー生駒の取組を評価され受賞に至ったことは大変喜ばしい。地産地消の仕組みが素晴らしいと感じる。脱炭素先行地域については、2月半ばの応募締切に向けて内容を検討中である。
当麻委員	この環境白書は市民向けに作成しているものなのか。そうであるなら、もっと見やすさを重視したものにするべきであろう。本編のボリュームを減ら

	すこと、写真やイラストを多用して本編を見れば生駒市の環境の概要が容易に理解できるように改善すること、市民団体を紹介する項目を作ることの3点を提案するので、検討していただきたい。
水谷会長	見にくさを指摘する声はこれまでの審議会でも出ていた。資料として載せるものについてはすべて資料編に入れ、本編はもっと見やすく簡潔にしているかどうか。この環境白書はどのくらいの人数の市民が読んでいるのか。
事務局	環境白書は市ホームページおよび図書館等で閲覧できるようにしている。どのくらいの人数が読んでいるのかという実態の数は、現状では把握していない。
右馬ノ委員	手に取りやすく読みやすい冊子を別途作成してはどうか。
水谷会長	概要版は作成していないのか。
事務局	「かんきょういこま」という小学生向きに作成したものはあるが、この環境白書の内容そのままの概要版は作成していない。
水谷会長	市民の方が手に取りやすく読みやすいものを作成する工夫として、例えば概要版を作成するなど検討してはどうか。
河瀬副会長	見にくいという声は以前からあった。こうした声を受けて、冒頭に「はじめに」のページを作成するようになったという経緯がある。「はじめに」を1ページの表にするのではなく、2～3ページくらいに環境白書全体の概要をまとめ、その数ページだけ読めば内容が大まかに分かるようなものを作ってはどうか。
事務局	委員の意見を受け、次年度以降は概要版を作成することを検討する。
矢田委員	冒頭の「はじめに」だけでも、ですます調にしてはどうか。である調よりも柔らかい印象になって読みやすくなるのではないか。当麻委員から提案があったように、市民団体について記載する項目を作成してはどうか。1ページの環境目標の進捗状況は、実績の推移だけでなく環境マネジメントシステム推進会議が生駒市の取組を監査することで得られたものである。生駒市がどのような取組を行ってきて、それに対して誰がどのような評価をしているのか、またそれを受けて生駒市は今後どうするのかといったことが読み取れる環境白書にしていきたいと思いますと思う。
水谷会長	「はじめに」がなかった頃の環境白書と比較すると、いくらか読みやすくなっているが、もっと改善できるポイントがあると思うので検討していただきたい。
伊藤委員	神奈川県にある自治体では、回収した電子機器などからお金になる金属類が多く発見されたという事例があった。生駒市ではどうか。
事務局	生駒市では、回収されたものは関西メタルワークが分別・粉碎し、リサイクルしている。その中でお金になるものは収益として市に還元を行っている。

寺田委員	28ページのフードドライブの数値が仮置きになっているので、記入していただきたい。
事務局	数値を確認中のため分かり次第記載する。
白本委員	事前に資料を渡すのが遅い。審議会の前に資料を確認しておく時間が十分にとれないので、資料はもう少し早く渡していただきたい。
事務局	お渡しが遅くなってしまったことは大変申し訳ない。次回以降気を付ける。
白本委員	21ページの奈良先端科学技術大学院大学との連携について、スマートシティの推進やカーボンニュートラルは、大学内のどこの部署で行っているのか。
事務局	窓口となる部署から必要に応じて各研究室等に繋いでいただく。
白本委員	包括連携協定については、その後の進捗が見えにくいところがある。市民の方々がこの記載を見て理解しやすいように、大学内のどこで行っているのかは公表していただきたい。
上武委員	駅前で奈良先端科学技術大学院大学による人流調査が行われていたりするが、そうした様々な調査も活用していただきたい。
水谷会長	包括連携協定の中身については、具体的な事例があれば記載することを検討していただきたい。
伊藤委員	32ページにのコロナの影響で乗客数が減少とあるが、コロナの影響のみではないはず。例えば少子高齢化により、通学にバスを利用する子どもが減少した・通勤にバスを利用する大人が減少したなど他にも要因はあるはず。
矢田委員	乗客数が減少したことの記載にとどまっている。増減の評価は人口比ですべきではないか。生駒市の評価や今後の取組の記載をしていただきたい。
右馬ノ委員	今月21日に奈良交通のバス路線の減便に関する説明会がある。バス路線の全体の中でたけまる号の在り方については考えていく必要がある。
水谷会長	コロナの影響のみでなく、そのほかの要因の記載や、それを受けてどう評価するのか等、今後の考えも検討していただきたい。
河瀬副会長	「はじめに」について、令和3年度目標数値と令和5年度目標数値が2つ記載されているが、達成率はどちらの年度の目標数値に対しての達成率なのかを記載すべき。5ページの再エネによる発電容量の合計について、市内の事業者が市外に設置したものも含むのか、もしくは市外の事業者が市内に設置したものも含むのか、どちらなのかを伺いたい。
事務局	生駒市内に設置されたものである。
河瀬副会長	8ページの生駒市エネルギービジョンの②計画目標として記載された太陽光発電の普及率等の指標について、普及率とはそもそもどういうもの

	を指しているのか、母数は何であるのかなども記載していただきたい。
水谷会長	10ページの温室効果ガス排出量削減率については、簡潔に表でまとめるのは無理があるだろう。増減の要因や、生駒市が行った取組がどのように反映されているのかを記載するよう工夫してほしい。
上武委員	CO2排出量は、電気とガスで計算しているのか。
事務局	電気ガスのほか、石炭石油等の統計データにより算出している。
上武委員	市内に企業を誘致することで、その分使用電力は増加するだろう。地域の活性化とCO2削減は相反することもあるが、この辺りはどう捉えておられるのか。
事務局	再エネ電力をうまく利用しながら、CO2の増加を防ぎたいと考えている。
伊藤委員	遊休農地の面積について、生駒市はほかの自治体と比較して遊休農地の面積は広いのか。
事務局	手元に資料がないため申し訳ないがこの場では回答が難しい。
白本委員	省エネ家電買い換え補助金について伺いたい。市内の店舗から「対応が困難」との声も聞く。例えば、市民の方が特定のこの製品が欲しいと思って店舗に行っても、市内の店舗にはその製品の取り扱いがないという場合はどうするのか。
事務局	省エネ性能の多段階評価の要件をクリアしているすべての製品が、市内の店舗で取り扱いがあるわけではないと思う。実際は、市内の店舗で販売されている製品の中から選んでいただく形になる。
白本委員	問合せ先コールセンターの電話番号が 06 だが、フリーダイヤルの 0120 にすれば電話代がかからなくて市民の方の負担も減るだろう。
矢田委員	19ページの複合型コミュニティについて、この取組に関わっていない人が読んでも理解しやすいように記載していただきたい。そうすることで、「これなら自分にもできるかもしれない」と思ってくれる方が出て取組が拡大するかもしれない。
事務局	来年度版を作成する際には検討していきたい。
水谷会長	審議事項(3)「その他」について、事務局に説明を求める。
事務局	省エネ家電買い換え補助金について説明。
水谷会長	委員に、質問や意見を求める。
各委員	特になし。
水谷会長	閉会を宣言。
11時30分	閉会